

15-48 産業循環と利子率

「近代産業がそのなかで運動する回轉循環——平静状態、活氣増大、繁榮、過剰生産、破局、停滞、平静状態という循環であつて、そのより詳しい分析はわれわれの考察の圏外にある——を考察してみれば、そこで見いだされることは、利子の低い状態はたいていは繁榮または特別利潤の時期に対応し、利子の上昇は繁榮とその轉換との分かれ目に対応し、また極度の高利にもなる利子の最高限は恐慌に対応するということであろう。」

(大月『資本論』④ P450F8-11)

なお、(大月『資本論』第3巻 第2分冊⑤ P624F6-625B 1)にも同様な、より詳しい記述。

恐慌下での極度の高利という現象は現代では起きていないが、スペイン等で起きつつあるのか。